

鈴木健介さんにインタビュー

→ どうしてこの仕事をはじめようと思ったのですか?

「大学でイラストや建築デザインの勉強をしていた時に、友人が演劇に携わっていて、舞台の世界が面白いなと思いました。何気なくちょっと演劇に関わってみたらすごく楽しくて、そのまま職業になりました」

→ どのように演劇に関わっていますか?

「2つの立場で関わっています。普段は舞台美術という仕事をしていて、それ以外の時は、アゴラ劇場で舞台スタッフとして仕事をしています。舞台美術は、台本などをもらった時に、何もないところから絵や図面を書いてデザインをして、舞台装置を考える仕事です。アゴラの舞台スタッフの仕事は、劇場を管理・運営することが中心です。他の劇団がアゴラを使用して公演するときに、舞台セットの立て込みや照明の立ち会いをします。どのように舞台を仕込むかという時にそのアドバイスをしたり、劇場にあるものやその使い方の説明、危険などところはないかのチェックをしたりして、気持ちよく使ってもらえるように努めています」

→ スタッフならではの面白さとは何ですか?

「舞台美術の仕事は、一緒に仕事をする人によって全く舞台の形が変わることが面白いです。例えば以前関わっていた公演では、時代劇だったのですが、僕と一緒に仕事をした時は、浮世絵の中みたいな抽象的な世界にしました。色々な人とたくさん話をして、コミュニケーションをとることも楽しみの一つですね。アゴラ劇場での仕事、劇場スタッフとしての仕事の時も、劇場を使ってくれるカンパニー(劇団)とすごく距離が近くて、みんなと密にコミュニケーションがとれます。また、劇が終わってあがっていく過程を見るのも面白いです」

→ アゴラ劇場のような小劇場の魅力は何だと考えていますか?

「小劇場の一番の魅力といえるのが「距離感」です。俳優とお客さんの距離がとにかく近い。大劇場だとスクリーンの中の映画を見ているような感じですけど、小劇場だと同じ場所にいるという一体感がありますよね。また、大劇場だと下から見上げることが多いけれど、アゴラなどの小劇場では上からふかんで見られるところが新鮮です。僕は、大劇場より小劇場の方が好きです」



→ 鈴木さんの考える演劇の魅力とは何ですか?

「僕は大学の時には、一人で絵を描いてそのまま終わりが多かったのですが、演劇の世界は違います。その時々で、色々な人と一緒に取り組むのでとても面白いです。コミュニケーションがとれなくて大変なこともあります。うまくいった時の喜びは何とも言えません。一人では絶対できないものを、みんなできつくりあげていくのも魅力の一つです」

→ 一高中生に一言お願いします

「僕自身は、高校の時、絵を描くことに熱中していました。みなさんにもやりたいことをどんどんやって欲しいですね。また、ぜひ時間があれば小劇場にも足を運んでみてください」



小劇場の裏側を知る

みなさんは小劇場に行ったことはありますか?(小劇場はどんなものか知っていますか?)

目黒区には「こまばアゴラ劇場」という劇場があります。お客さんが60人くらい入る劇場ですが、本格的な演劇から中高生の演劇大会まで開催されているので、中高生にとっても身近な所です。

今回、劇場で舞台スタッフのお仕事をしている鈴木健介さんにお話を伺いました。

その仕事と劇場の舞台裏を紹介します。

文:取材:奥田 綾乃 記録:香川 えり子 写真:黒木 健



アゴラ劇場には...

劇場スタッフの方々がおり公演をサポートしています。スタッフは、20~30代のスタッフが中心で、運営・舞台・制作などの担当があります。運営は、7~8人が担当していて、その中にはふだん俳優をやっている人もいます。舞台の技術スタッフも半数ほどが俳優が兼ねています。



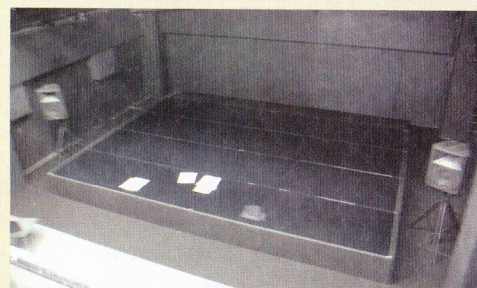
アゴラ劇場は...

舞台とお客さんが密接している、臨場感の溢れる小劇場です。アゴラとは、ギリシャ語で「広場」を表します。芸術監督の平田オリザさん、そしてフランチャイズ劇団である「青年団」を中心に、アーティストの広いつながりを生かして、質の高い舞台芸術を生み出すとともに、社会と芸術に関わる様々な活動を行っています。

2003年から、賃貸料をとって劇団に劇場を提供する貸し小屋制を停止して、ほとんどすべての公演を「こまばアゴラ劇場プロデュース」として企画制作しています。

自由度が高い!

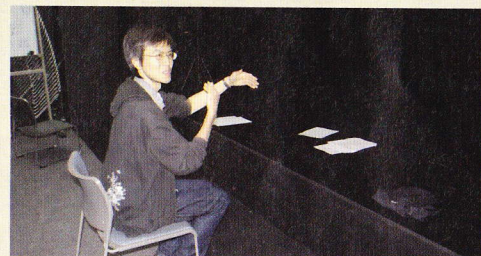
3階の客席から見た2階の舞台



大劇場に比べて制約が少ないので、危険でなければ様々なものを自由に使うことができます。たとえば、水や砂などを使ったり、劇場の壁を全面黄色にしたりすることもできます。舞台と客席の位置関係だって変えられます。もともと客席のところを舞台にしたり、照明や音響を操作するところがある3階まで舞台として使って、立体的な舞台をつくったりもできます。

お客さんと近い!

鈴木さんが客席最前列。
鈴木さんの手の先が舞台!



舞台がステージになっていないので、見上げることがなく、俳優と同じ目線で見ることができます。俳優さんもお客さんの顔が間近で見えるので、大きい劇場よりも緊張するそうです。海外の劇団が使うことも多いのですが、外国語を使う時はスクリーンに字幕を映します。

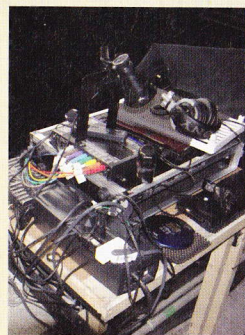
もともと民家だった



この階段を上がると2階の舞台へ

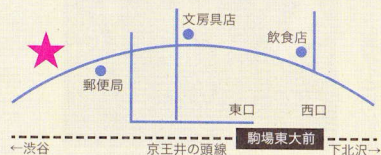
元キッチンの換気口

もともと民家だったものを改装して劇場にしてあり、いくつかの箇所にはその痕跡が見られます。住宅街の中にあるので、音響などができるだけ近隣の方々に迷惑にならないよう、注意が必要です。



アゴラ劇場には、「劇場を通じて若手劇団を支援するシステム」というものがあります。地方から来る劇団に技術スタッフがお手伝いをしたり、あまり照明や音響に慣れていない劇団や高校生たちにアドバイスをしたりあげたりします。1~2ヶ月前から劇団と連絡をとって、準備をしていきます。

Agora こまばアゴラ劇場



東京都目黒区駒場1-11-13
TEL.03-3467-2743
京王井の頭線「駒場東大前」駅下車 東口より徒歩3分

公演予定日程

4/2-4/16 平田オリザ・演劇展vol.2

【作・演出】平田オリザ
●平田オリザの中短編を連続上演シリーズの第二弾。

4/17-5/6 サンプル

『自慢の息子』【作・演出】松井 周
●第55回岸田國士戯曲賞受賞作品。アゴラにて堂々の再演。

5/9-5/20 東京ELECTROCK STAIRS

『すこぶるブルー(仮)』【振付・出演】KENTARO!!
●カンパニー初の少人数での密度の高いパフォーマンスをお届け。

私も使いました!



第65回東京都高等学校文化祭演劇コンクール地区発表会(10/9・10)も、7~8年前からアゴラ劇場で行っています。最初は公共ホールに近い形で使おうとしていたのですが、2~3年目からは普段のアゴラ劇場のように、小劇場の魅力を使うようになりました。

高校生は、完全に初めての人が多いので、安全面が一番気を使うそうです。劇場に入ってから色々劇をつくる時間はないので、照明の力が大きく、照明で表したい世界観が広がります。

高校生は、スタッフさんに何かに言ってもらえるのは嬉しいですが、慣れている劇団だとそうでもないそうです。

私も、照明として大会に参加しました。照明の装置はとても使いやすく、アゴラの方は色々アドバイスをしてくださいました。照明は舞台全体が見渡せる3階で操作をします。そこからの眺めはとても良いですよ。3階は、劇が始まると客席の扉は開けられないので、途中入場のお客さんを入れたりしますが、はじめからそこで劇を見るお客さんもいます。